

Ⅵ アドバイザー総括

本事業を通じての考察

取組について

モデル事業の効果検証の流れを汲み、更に「子供主体」を考えながら現場に即し日々の実践を重視した取り組みになるように配慮し、進めました。

■ アドバイザーの意図

- 1 アドバイザーは伴走者としての立ち位置で、参加園の保育者のみなさんと同じ目線で考えていきました。自然を活用して、子供たちの発見や創意工夫が生まれるような活動を一緒に考え、試行錯誤することを意図しました。
- 2 保育者と共に子供の姿を振り返るだけでなく「保育がどうだったか」を振り返りました。その日の保育を振り返ることで、子供たちの姿を捉え直すことや保育者間の視点・認識の違いに気づく機会となりました。また「反省」というよりも「対話」から学び合うことを意図しました。
- 3 子供に「何をさせるか」よりも、子供の声を聴き気づきに寄り添いながら、保育者自身も子供と一緒に体験し楽しむことを意図しました。

■ 活動中に見られた子供と保育者の変化と効果

- 1 「子供たち自身で遊びを見つける力があるんだ」という保育者の気づきにつながった。
- 2 保育の振り返りを通して「次はこうしてみよう」「前回こうだったからこうしてみた」と試行錯誤する保育者の姿が生まれ、保育の連続性が見られた。
- 3 保育者が子供たちと一緒に自然を楽しむことで、子供たちの声(眩き)や気づきから、子供の成長や新たな一面を発見したという感想が多くあがった。
- 4 保育者と遊びたがっていた子供たちが、自ら自然を発見する楽しさや工夫して遊ぶ面白さを体験し始め、子供同士で遊ぶ姿が増えた。
- 5 ゲームやYouTubeの話ばかりだった子供も外遊びを楽しむようになったとのこと。子供たちが、保育者が用意する活動や固定遊具だけでなく、自然物へと視野が広がり自ら遊びを見つけるようになった。

? こんな質問が挙がりました

安全管理が不安です。どのように考えたらいいですか？

何が不安なのか？何が危険なのか？を書き出してみましょう。「子供たちの豊かな体験の機会」という視点を持ちながら、どうしたら安心か対策を考えてみてください。無理をしないことは大切です。

子供主体の保育のイメージができません。どうしたらいいんでしょう？

まずは今まで行ってきた一斉保育の活動に、**子供自身で考え工夫できるような選択肢と余白を作り**、活動が広がっていいようにするところから始めてみてはいかがでしょうか？すると子供たちの個々の発想が生まれてきます。

自然環境で、何をしたらいいかわかりません。

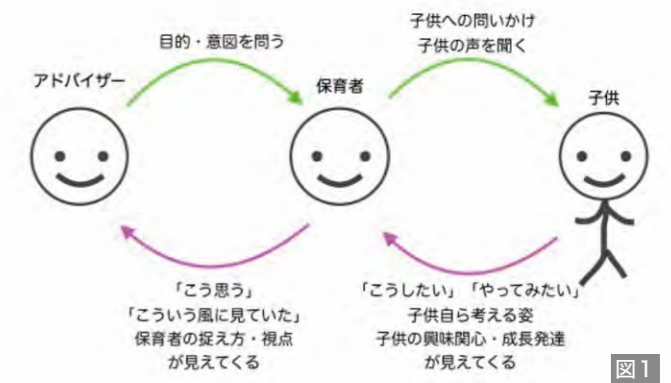
子供たちに聞いてみましょう。「何ができるかな？」「何か面白いものがあるかな？」と投げかけてみることで色々なもの(こと)を見つけられます。子供は！遊びの天才ですから！

■ アドバイザーの考察

アドバイザーの関わりは、保育者と子供との関わりや視点が似ていると感じています。園内でも主任や保育リーダー等がアドバイザーのように問い掛けながら関わることで、保育の質を高めることも可能なのではないかと考えています。

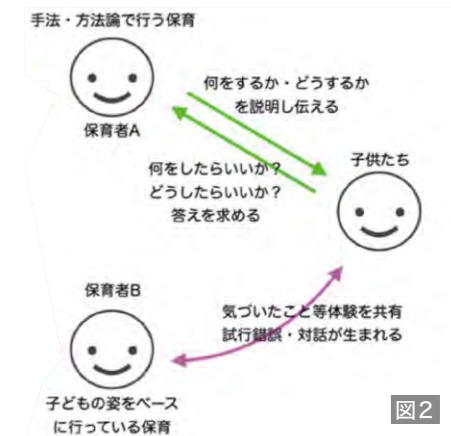
Point 1 関わりについて

アドバイザーが保育者にその日の目的や意図を問うことで、保育者自身が子供の姿を「こう捉えていた」と振り返り、子供の姿をより深く捉える時間となります。個々の考えや視点を大切に、課題があればそれを出し合い「次、どうしていくか？」を考えて、次の保育のステップへと繋げていきます。図1のように、保育者と子供との関わりも同じだと気づきました。「どう思う？」「どうしたい？」と問うことで自ら考えるという姿が生まれます。それぞれの体験や考えを言語化を促し、交通整理(ファシリテーション)を行う人がいることで見えてくることがあります。



Point 2 保育者の視点について

方法論で保育を捉えていると子供たちに「手法や方法」を伝える関わりになり「何をするの？」と子供が受け身になりがちです。保育者が子供の姿(眩きや興味関心)を側で一緒に体験することで、子供との対話が生まれます。手法や方法が良くないのではなく、子供たちが今何に興味関心がありどんなことを楽しんでいるのか？を捉え、次への見通しを持つことがより大切です。



Point 3 保育の振り返り

保育の振り返りには2つの視点があります。

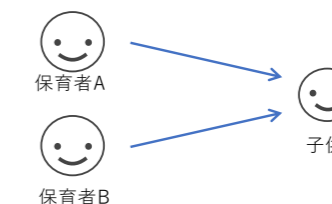
① 子供の姿の振り返り

複数担任の場合、それぞれの視点の違いを共有することで多角的に子供たちを捉えることができます。

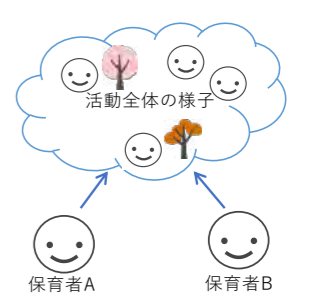
② 保育活動自体の振り返り

保育の流れや子供たちの様子、環境など全体を振り返ることで、よりその時々の子供たちの成長発達に沿った保育になると考えています。子供たちの姿をプロセスで捉え、連続性を持つ視点につなげていくことができます。

① 子供の姿の振り返り



② 保育活動自体の振り返り



Ⅵ アドバイザー総括

事業を通じたアドバイザーによる考察

更なる普及促進に向けて

本事業を通してお伝えしてきたことで、各園でもできそうなことの提案をお伝えします。

01 活動後、子供との振り返りを

- 散歩や外遊びなどの活動の終わりに「今日のお散歩はどうだった？」と子供たちに問いかけてみる。
- 子供が気づいたこと、思ったことなどを共有する。
- 「ぼくもみたかった」「わたしもやりたい」という子供たちの興味関心を次の活動へのヒントに。



02 子供も保育者も体験しましょう！

- 触れる、嗅ぐ、耳を澄ますなどの五感を使った体験を意識してみる。
- 子供が楽しんでいる遊び(木登りや草むら歩き・飛び降りる等)を保育者自身も体験してみる。
- 子供の力試しの体験を見守り、何が危ないのかを保育者自身も体験してみることも大切。



03 保育者間のコミュニケーション

- あの時何が起きていたの？と気軽に問いかけ合える関係作りに取り組んでみましょう。
- 日々の振り返りや研修等の中で、保育者自身の得意なことや興味関心を伝え合い、一人ひとりの特性を知る機会を作ることがおすすめ。
- 日々5～10分程度、保育者間で「保育の振り返り」を行う時間を持つとベスト。振り返ったことをそのまま日誌に箇条書きする等の工夫をしてみても？



アドバイザーから

野村 直子

今回「子供主体の保育」について深く考える機会となりました。概知の通り、日々子供たちと過ごす私たち保育者の子供への影響は多大です。どう関わるか、どのような言葉を発するか、どんな声のトーンで話すか…一つひとつの保育者の姿を子供たちは敏感に感じ取り、お手本にしていることが各園の取り組みからも見て取れました。影響が大きいからこそ「何をするか・させるか」よりも、保育者自身が子供たちにとって「どんな先生であるか？」ということを一一人ひとりが持つこと、そして問い続けることが大切だと考えています。



新しい時代を生きる子供たちが、自分と家族と間のことだけでなく、社会や地球環境へも意識を拡げて“主体的に人生を生きていく人”となることを願いながら、自然環境や子供たちの育ちを捉えていくことが必要になってくると思います。そして子供たちが都市部に住んでも自然が身近になり、自分も自然の一部なんだと感じられるような乳幼少期を過ごしてほしいと願っています。



久保田 修平

「ああ～、楽しかった～」ある園の保育同行初日、保育の振り返りを始めようとした時の担任保育者のつぶやきです。私はこの言葉を聞いて「子供主体の保育は、保育者の在り方に深く関係している」と感じました。今回保育アドバイザーとして、一方的な指導・助言ではなく共に考えることを意識し関わりました。「子供の主体性には、保育者の主体性が関係してくる」と考えています。保育者が主体的になりつつ、子供の声や姿から捉え、そこから保育を柔軟に進めていくことで、子供自身が面白さを見つけ、興味関心を広げ、探求していきます。「子供も保育者も安心安全な場であること」「保育者がゆとり・余白を持っていること」「保育者自身が楽しむこと・自分の特性や好きを大切にすること」を下支えに、子供も保育者も伸び伸びと場を共有していけます。これは私にとっても大きな気づき・学びになりました。より豊かな場になっていくことを願っています。



令和4年度「子供主体の保育普及促進事業」

有識者・アドバイザー〈プロフィール紹介〉

有識者

汐見 稔幸 氏 (しおみ としゆき)

一般社団法人 家族・保育デザイン研究所 代表理事／東京大学名誉教授／白梅学園大学名誉学長

教育学、子どもの発達の人間学(教育人間学)、特にことばと人間形成を専門とする教育哲学者の一人。わかりやすくユーモアにあふれた講演内容は、教育現場で働くプロの教育者から子育て中の親まで幅広く支持されている。保育者による本音の交流雑誌「エデュカーレ」の責任編集者も務め、学びあう保育の公共の場の創造に力を入れている。

宮里 暁美 氏 (みやさと あけみ)

お茶の水女子大学アカデミック・プロダクション寄付講座教授

国公立幼稚園教諭、お茶の水女子大学附属幼稚園副園長、十文字学園女子大学人間生活学部教授などを歴任。主な研究領域は保育学全般、幼小接続、子育て支援論、遊び環境。『子どもたちの四季～小さな子をもつあなたへ伝えたい大切なこと』(主婦の友社)著、『0-5歳児 子どもの「やりたい!」が発揮される保育環境』(Gakken 保育 Books)監修、『思いをつなぐ保育の環境構成 0・1歳クラス編』(中央法規出版)編著など、著書多数

アドバイザー

野村 直子 氏 (のむら なおこ)

一般社団法人new education LittleTree 代表

東京都多摩地区出身

「子ども」と「自然」をキーワードに、国内外での保育と自然体験活動などの経験を重ねる。小規模保育室園長や自然学校にてディレクターなどを務めてきた経験を生かし、保育園立ち上げコンサルティングや保育のアドバイザーとして活動。国内外の保育園・幼稚園研修、講演会などを通して、新しい保育・教育の視点を提案し、「地球の未来を創る人材(リーダー)が育つ場」を提供している。

久保田 修平 氏 (くぼた しゅうへい)

一般社団法人new education LittleTree

2015年6月から600日をかけ、ヨーロッパ・北中南米・ニュージーランド・アジアの25カ国を訪問。旅のテーマの一つに「世界の子育て、保育を知る旅」を掲げ、各国で保育教育施設の視察やボランティアを行い、肌で海外の子育てを感じる。日々自然の中で子どもに向き合い奮闘中!

令和5年3月発行

令和4年度 子供主体の保育普及促進事業 活動報告書

編集・発行

東京都福祉保健局少子社会対策部保育支援課

電話 03(5320)4130<直通>



東京都福祉保健局少子社会対策部保育支援課